

第5回総合戦略策定検討委員会

要点記録

日時：平成27年11月25日（水）

18時00分～20時00分

会場：市役所2階 204会議室

次 第

1. 開会
2. 委員長あいさつ
3. 報告
(1) 「あきしまの水」ブランド構築・推進事業の進捗状況について
4. 議題
(1) 総合戦略素案について
5. その他
6. 閉会

配布資料

- ・資料1 「あきしまの水」ブランド構築・推進事業
 - ・資料2-1 総合戦略（素案）
 - ・資料2-2 昭島市総合戦略の体系図
 - ・資料3 昭島市総合戦略冊子イメージ（表紙と目次）
 - ・資料4 11月7日実施の市民ワークショップ【意見まとめ】
 - ・資料5 東京都総合戦略の概要
 - ・第4回会議要点記録（総合戦略策定検討委員会、総合戦略策定庁内検討委員会）
- 机上配布
- ・次第

出席者（敬称略）

- 委員長・・・ 松本祐一（多摩大学総合研究所 教授・副所長）
- 副委員長・・・ 飯田哲也（ハローワーク立川〔立川公共職業安定所〕職業相談部長）
- 委員・・・ 宗川敏克（昭島市商工会 事務局長）、勝見真之（連合多摩中央・立川市職員労働組合）、齋藤久未（J:COM多摩 多摩局地域プロデューサー）、元木絵美子（公募市民）、中尾一博（公募市民）、永澤裕（公募市民）
- ※欠席〔長島剛（多摩信用金庫 価値創造事業部部长）〕
- 事務局・・・ 企画部長、企画部企画政策課長、企画部企画政策課企画調整担当係長
- コンサルタント・・・ 齋藤（㈱サーベイリサーチセンター）

1. 開会

事務局・・・これより第5回総合戦略策定検討委員会を開催する。

○事務局より配布資料の確認

2. 委員長あいさつ

委員長・・・急な日程の変更に対応いただき感謝する。この会議も大詰めに来ていることもあり、本日は最終的な確認をしていくことになる。ご協力よろしくお願ひしたい。

3. 報告

(1)「あきしまの水」ブランド構築・推進事業の進捗状況について

○産業活性課長より資料1『あきしまの水』ブランド構築・推進事業の説明

委員長・・・今の説明について、質問や意見はあるか。

齋藤委員・・・パンフレットの印刷部数と配布方法をお聞きしたい。

産業活性課長・・・今回は先般行われた産業まつりを中心に配布したため、それほど多く印刷していない。ロゴに対する評価も踏まえて今後検討していくことになる。

齋藤委員・・・水のPRとしてはとても良く、公民館等に置いてあって興味ある人が手に取って読むには十分な内容である。しかし、新たに昭島市に住むことを考えている人や若い人に興味を持って手に取ってもらうためには、デザインに魅力が足りない。

委員長・・・市民の目から見るとどうか。

永澤委員・・・一見した限りでは、何のパンフレットかわからない。

委員長・・・「夢つなぎ人」という言葉はどこから出てきたものか。

産業活性課長・・・専門のクリエイターに事業を依頼しており、事業者のワークショップの中でキーワードとして出てきたものを取り上げたものである。

委員長・・・ブランド構築の話だが、PRとしてはまずは市民が対象か。その価値を皆で再認識しようというイメージの方が強く感じる。

産業活性課長・・・現段階では市民の方に対して昭島の良さを再認識していただくという印象の方が強い。それを知った市民が、今度は発信する側となることも想定している。

委員長・・・「総合戦略」の議論の中では、昭島市でどのような暮らしができるのかということに時間を割いてきたが、やはりその最大の基盤となるのは「環境との共生」ということであった。それを最も感じさせてくれるのが昭島の水であるが、水そのものではなく、水を利用してどのようなことができているかということ、事業者を前面に出して見せるのは良いアイデアである。但し、素材は良いがデザイン的には工夫が必要という意見があった。

齋藤委員・・・駅に置いてあるフリーペーパーを手に取る人は意外と多いので、このパンフレットもそうした場所に置けば、観光ツールとしても役立つだろう。そのためにまず手に取りたくなるようなデザインであることが大切である。

委員長・・・「総合戦略」の中でも、水は外から人を呼び込むための中心的な位置付けのものであり、かつ市民の方々が昭島市の良さを再確認するためのものであるから、ぜひこのブランド構築は引き続き展開されていかれるよう当委員会としてお願ひしたい。

4. 議題

(1) 総合戦略素案について

○事務局より資料4「11月7日実施の市民ワークショップ【意見まとめ】」の説明

※市民ワークショップで出された意見は、庁内および外部検討委員会で議論されてきたものに沿うものであり、また個々の具体的なアイデアは、これまでの施策、事業にリンクされているものであることから「総合戦略」に特段の修正・反映は加えていない。またこの内容は先般の庁内検討委員会でも了解を得た。

○資料2-1「総合戦略(素案)」、資料2-2「昭島市総合戦略の体系図」の修正点を資料5「東京都総合戦略の概要」を参考にしながら説明。

委員長・・・前回の私たちの意見と庁内検討委員会の意見が反映されているということである。それと本日欠席の長島委員からコメントが寄せられている。

事務局・・・長島委員からは、“目標値・指標等としてKPIを掲げているが、ここに現状値と目標値を併記した方が良いのではないか”という意見をいただいている。現段階ではまだ併記した状態ではないが、この意見は事務局預かりとさせていただき、今後議会との調整を図る中、またパブリックコメントの意見も踏まえて検討させていただきたい。

委員長・・・事務局では私たちの意見をかなり取り入れていただき、細かな修正をしていただいたようだ。「総合戦略」はここまでの議論で完成に近づいているので、本日は意見、質問、感想等何でも構わないので、順番にお一人ずつ発言をお願いしたい。まずは副委員長から願います。

副委員長・・・全体的な印象としては丁寧なつくりをされたと感じる。

今回6ページに追加いただいた「障害者就労支援」であるが、目標設定を含め、この趣旨をご説明いただきたい。

それと資料2-2はポンチ絵だが、やや文字が多く、入れ込み過ぎていると感じる。

事務局・・・全庁的に事業の提案を募った中で、障害者の自立支援という提案があったことから、この事業が追加された。障害者の就労支援は、従来からも取り組んできているが、企業に対して障害者の雇用促進を働きかけ、自立が可能になるよう、就労支援ネットワークを通じて雇用を働きかけ、促進を図るという趣旨である。

資料2-2は、確かに文字を読み込まないとわかりづらいので、公表する段階では視覚的に入るよう工夫していきたい。

副委員長・・・全員参加型社会という意味合いも込めてということになるのか。さまざまなことを要素として盛り込もうとすると、別の支援が必要な方が出てくると思うが、障害者支援について、市は重点を置いているというメッセージを発信しているということも含めていざとご理解させていただく。

事務局・・・これまで「◆都市農業支援」に関しては農福連携の事業を示してきたが、政策的に調整・検討が必要ということから、今回は外させていただいた。それによって障害者の事業が抜けてしまったこともあり、福祉分野の担当課にも協力をいただいた。

委員長・・・資料2-2、図の全体的なレイアウトはこれで良いが、例えば基本目標の枠にぶら下がる枠内に、もう1つ「具体的な施策」レベルの図を入れて視覚的にまとめると

良い。そうしたシンプルなものではないので、事務局で工夫をお願いしたい。

宗川委員・・・この案はとてもよくまとまっているという印象を持った。

個人的には基本目標1の中小規模事業者に対する部分で、個別に項目立てをしていただいていることは大変ありがたい。

気になる点としては9ページ、「都市計画道路3・4・1号整備事業」が新たに追加されたが、3・4・1という表記では場所が不明である。また、3・4・2号の整備は拝島駅周辺の整備で終了ということか。

10ページの「観光まちづくり協会との連携・支援」の内容に「運営に係る補助を行い」とあり、11ページ、「昭島市文化事業協会との連携」の内容でも「運営に係る補助を行うことにより」とあるが、表現として補助を行うだけで良いのかどうか。13ページの数値目標が「保育所入所待機児童数の減少を目指す。」と表現されているが、個別の事業で15ページ、「保育所入所待機児童数の解消」の内容は「平成29年度までに待機児童を解消」と表現されている。「減少」と「解消」と表現が異なっているが、M字型曲線の解消として、就労するためには保育所の確保が重要な施策であるから、「解消」を前面に出して良いのではないか。

資料2-2の図の一番下に「昭島市に『住み続けたい』、『訪れてみたい』、『住んでみたい』と望む人を増やす」とある。これは総合戦略で最も大事な部分であるので、これはより強調した方が良い。また、表記の順は「住み続けたい」、「訪れてみたい」、「住んでみたい」で良いのか。

事務局・・・9ページの「都市計画道路3・4・1号整備事業」であるが、この場所については追記を検討する。3・4・2号の整備は、その上の「拝島駅周辺整備事業」に含まれているものである。また、それ以外の道路については、各々の整備はあろうかと思われるが、今後の昭島市の大規模事業としては3・4・1号がメインとなるため、ここに掲載したものとご理解いただきたい。

各協会に対する補助は、市の財政支援として運営費補助ということもあり、実態を表記したものとなっているが、ここの表記はご指摘の通りであるので、修正し、議会提出前に間に合えば委員の皆さんにも配布させていただく。

待機児童数の「解消」と「減少」の異なる表現は、ご指摘の通りで、事業で「解消」を謳っていることから、数値目標も「解消」に合わせて修正する。

資料2-2の「昭島市に『住み続けたい』、『訪れてみたい』、『住んでみたい』と望む人を増やす」は、市が全体的に目指す大きなものであるので強調する。表記の順は通常ならば、「訪れてみたい」、「住んでみたい」、「住み続けたい」にするところだが、これまでの昭島市の取組みとして、「住み続けたい」まちを目指していたことから、この順で表記したもので、それがわかるよう工夫する。

委員長・・・補助の話に関連して、市民同士の助け合いを大事にすることや、何もかも行政が行うのではなく、市民が主体となって発信していくということも、今回の戦略の中では全体に係る大事な要素である。個別事業の表記の仕方は、再度全体をチェックして、必要に応じて工夫をお願いしたい。

勝見委員・・・6ページ、「障害者就労支援」だが、目標値・指標等が「一般就労した人数」と過去形で書かれているが、その後ろでは「平成29年度に20人」と記述されていること

が気になった。

12ページ、「新たな広報活動の展開」の目標値・指標等で動画作成は年間10本となっているが、今後アピールしていくにあたっては少ないのではないか。媒体作成として想定されているものも含めて教えていただきたい。また、フォロワー数とはTwitterのことか。

17ページ、「昭島市リーダーズクラブの育成」の目標値・指標等で小学生リーダーは延べ1,800人とある一方、中学生リーダーは16人、会員数も34人しかいない。なかなか地縁を活かした子どもの健全育成につながっていないと思うが、その点どのように考えているか。

事務局・・・「障害者就労支援」の「一般就労した人数」はご指摘の通りで、「一般就労に至った人数」が適切かと思う。確認後、修正したい。

「新たな広報活動の展開」のフォロワー数とはTwitterのことである。それと動画作成本数は季節、時期等を捉えてのPRということで、現在動画は作成できていない。作成方法は今後の検討だが、年間目標は10本としている。

事務局・・・「昭島市リーダーズクラブの育成」は、子ども育成課によると、小学生リーダーは全小学校で行っているが、講習会のプログラムが統一されているものではないことから、プログラムごとの延べ参加者人数をカウントしているため1,800人としているとのことである。そのため、中学生リーダーとはニーズが異なるということであるが、人数が少ないことは再度担当課に確認する。

勝見委員・・・ここは地縁をいかした子どもの健全育成につながる場所でもあるので、記述するかどうかは別として、ぜひ充実できるようお伝えいただきたい。

委員長・・・なぜその目標値・指標等を記述したのかという説明がないため、このように列記されていても、それが適切なものかどうか私たちとしてはわかりづらい。ここに記述できるかどうか、あるいは別のところにその説明が必要かもしれないが、まずはわかりやすい目標値・指標等を考えていただくことも所管にお願いすべきことだろう。それと動画作成だが、市役所がつくるからこういう数字になる。市民が作成したものがここに入れば数も増える。所管課での考えもあるが、この委員会を出ているように、市民を巻き込んでいくという意味では動画作成をすべて市役所側で行う必要はない。

事務局・・・現況では昭島市はこの部分で遅れをとっている。広報戦略を改めて練り直すぐらいの気概はあるのだが、具体的なビジョンはまだ描ききれていない。但し、「総合戦略」において広報戦略は重要な位置付けであると認識しているので、まずはできるところから手をつけていきたい。委員長からもあったように、将来的には市民参画も大事だと思うが、現状を捉えると、どのような方向で進めていくのが良いのか検討しているところである。

委員長・・・担当課から出してもらっただけではなく、この計画のビジョンを見ていただいて、具体的に所管の方でビジョンに合わせた形で考えていただくというのも必要である。もちろん、今回の計画内に記述しきれないかわからないが、このビジョンをしっかりと参考にしていただき、今後の施策につなげていただきたいということを、ぜひメッセージとしてお伝えいただきたい。

- 齋藤委員・・・私も目標値・指標等がよくわからない。誰が見てもわかるような内容にさせていただきたいと思う。
資料2-2の図は、誰が見ても一目でわかるように外への発信を意識して作成されたものか。
- 事務局・・・図は前回の委員長からの意見を受けて作成した資料であるが、今後、パブリックコメントをにかけていく段階ではよりわかりやすくなるよう検討が必要だと考えている。
- 齋藤委員・・・今後、この図を外に向けて活用していくのであれば、先ほど委員長からもあった要点の抽出に加えて、「住み続けたい」、「住んでみたい」ということが想像しやすいイラスト、また、基本目標の内容に沿ったイラストがあると良い。
- 委員長・・・目標値・指標等は、市が今後どのような考えであるのかということが、よりわかりやすくなるよう検討をお願いしたい。
- 事務局・・・わかりやすい表記を検討していきたい。但し、すべての事業が上昇傾向で描けるわけではないため、減少傾向のものを向上させる、現状維持するといった点も含めてわかりやすい表記を検討する。
- 委員長・・・国からもKPIを設定するよう言われているが、あまり細かい数字に拘ってしまうと、枝ばかりを見て中心の幹を見なくなってしまう。基本目標の最初に出ている数値目標が最も意識しなければならない数値であり、それ以外の個別の事業は状況によって変わってくることもあるのだから、そこは柔軟に考えていきたい。但し、これは所管課が設定するものあり、私たちからは口を出しにくいところだが、市民の目から見てわかりやすいものにするという工夫は必要である。その点は引き続きよろしくをお願いしたい。それは資料2-2の図も同様で、この図が外に向かって出ていく最初の玄関口になると思うので、ここは思いを込めて作成していただきたい。ぜひよろしくをお願いしたい。
- 永澤委員・・・長い議論を踏まえて、ここまで出来上がったが、よくまとまっている。
個人的には基本目標1「安定した雇用を創出する」が一番の肝だと思う。前回の委員会で、昭島市の製造業は将来的にも大丈夫かという意見を出したが、行政として関われる範囲はここに記述された内容が限界か。行政として民間企業に対して最大限のことをしているというアピールができると良い。
- 事務局・・・それは基本目標の中に記述するという事か。
- 永澤委員・・・昭島市として、今後市に根付いてもらいたいという意思表示はこの程度で良いだろうかということである。
- 事務局・・・どんな民間企業でも地域貢献という考えはあると思うが、逆に行政側からアプローチとして思い切った策を打ち出すのは基礎自治体ベースでは厳しい。広域の都道府県、あるいは国レベルでの対応が必要になる。そうは言っても、地域で共存共栄している企業の皆さんとどのような連携、支援ができるのかということには、常々頭を悩ませているのだが、やはり具体論になると自ずと限界が見えてきてしまう。
- 永澤委員・・・国は地方自治体に対して、地元企業との連携を図るよう強く求めているが、どのように具体的に実施していけば良いのか難しいところである。
- 事務局・・・「あきしまらしさ」という観点から環境を前面に推し出していけるよう、「環境配

慮事業者ネットワーク」などの事業も掲げている。それが収益に結びついているかは別として、企業のCSR活動の一環として、企業のイメージアップにつながっているのは間違いない。自治体によっては誘致の際、固定資産税の減免を一定期間行っているのだが、本市の運営状況ではそれも難しい。どのような取組みができるか長い課題となるが、引き続き検討していく。

委員長・・・この検討委員会での成果として、中核企業と中小規模事業者というターゲットを明確に分けて考えたということが1つある。従来は一体的な進め方であったが、昭島市には大小のさまざまな企業があつて、それぞれニーズも異なれば、やるべきことも異なるため、ここでその整理ができたことは大きい。その中で主となる中核企業との関係づくりとしては、環境が1つの切り口になるし、中小規模事業者においては事業承継や商店街のこと、また障害者の就労支援も今回入ったが、それらが切り口となるだろう。おそらくこの後、産業振興でもさまざまな動きがあると思われる。本日は市民部長にもお越しいただいているので、一言お願いしたい。

市民部長・・・私どもは産業活性課とともに市内企業を担当している部署であるが、今回の「総合戦略」で、地方が積極的に企業誘致の戦略を練ってくるため、昭島市としても危機感を持った対応が必要であると十分認識している。企業から話を伺うと、企業としてはCSRの観点からPRをしたいが、企業独自で行うと利益追求が目的のように捉えられがちなので、市の後ろ盾があると助かるという声を聞く。そこで私たちとしては、奮励する企業の情報提供をしていくことが施策の1つとしてあるし、また、小規模な事業者を支援するための事業として、「事業承継」を掲げている。今後、さまざまな角度から対応が必要であることは認識しているので、よろしく願いたい。

永澤委員・・・大きな企業には、それを取り囲む優れた中小の企業との連携が必要であるため、そのあたりはご尽力を願いたい。

中尾委員・・・全体的な感想としては、事務局としては大変なご苦勞があつたかと思うが、おかげで良いものができたと感じている。

個人的には個別事業のKPIの議論に時間が取れなかったことが残念である。このKPIを見て、市が2060年までにどのようなことをしようとしているのかをイメージできると良い。

先日の市民ワークショップで、若い母親が子どもを遊ばせる場所が少ないと言われていた。昔、子どもたちができた遊びが、今できなくなりつつあるが、昭島市ならまだ可能である。水が豊富なことから、それを利用した遊び場があると良い。

事務局・・・拝島駅周辺の整備で、駅前に人を呼び込むという点では、水をイメージしたモニュメントが計画されている。確かに水を利用した公園や遊び場という意見もあつたが、公園整備となると、この段階で具体的な方向性を示すのは難しい。但し、まちづくりの中では、水を大事にしているということをアピールしていく検討はしていきたい。「総合戦略」も策定したらそれで終わりではなく、2040年、2060年の長期ビジョンがあつて、それを達成するための5ヶ年計画となっている。見直しの時期には事業等の見直しも含め、今の意見も含めてより良いものにしていきたい。

委員長・・・これは改めてこの委員会で水というものが、昭島市にとっての鍵となるということ

が確認できた内容でもある。資料1のパンフレットでは、事業者を前面にしてまとめられていたが、“水と遊び”といったことも1つアイデアとして考えられるということである。

宗川委員・・・水と安心して触れ合えるという意味では、「あきしま水辺の楽校（がっこう）」はまだ続いているのか。

事務局・・・続いているが、ワンド（湾処）はなくなってしまう。水は昭島市の特徴の1つであるから、これまでのまちづくりにおいて、そうしたものや湧水の保全も含めて少しずつ取組みをしてきているが、今後住んでみたいまちを目指すためにも、ハード整備の機会があれば、子どもの視点も大事にしていきたい。

元木委員・・・東京都では障害者雇用優良企業登録事業として、「TOKYO はたらくネット」に企業名が掲載されている。昭島市でも障害者もそうだが、女性を多く雇用されている企業をウェブサイトに掲載すると、企業にとってもメリットがあって良い。それと地方で障害者の方が農業で成功されてブランド化している例もあることから、昭島市でも農福連携を実施するという期待していたのだが、今回は見送られたということで、今後の楽しみにしたい。

事務局・・・優良企業のウェブサイト掲載は、主管課に伝え、可能であれば対応していきたい。農福連携は、私も個人的には残念だと思っているところではあるが、0になってしまったわけではなく、この5ヶ年の中では整理すべき課題があるため、最後まで調整をさせていただきたいと考えている。

委員長・・・お一人ずつ思いの部分も含めてお話しをいただいた。最後は私からだが、密な議論ができたこと、更には私どもの意見を事務局が丁寧に拾い、かなり盛り込んでいただいた。外部検討委員会としての役割をしっかりと果たしているのは、皆さんの協力のおかげである。

私からは全体のまとめたコメントとなるが、1つは安定した雇用を創出するという点で、中核企業（大企業）と中小規模事業者とを分け、それに対する施策をしっかりと打ち出したということである。なおかつ女性の雇用にも力を入れていくという話があった。

昭島への新しいひとの流れという点では、ポイントとなるのは水であった。水を通じた昭島の魅力が大きいこと、それと住みたいという点では、地域のコミュニティがあるということが魅力であり、そうしたものを統合する1つのコンセプトとして「環境との共生」が基盤としてある。本日までの議論を大きくまとめれば、そういうことなると思っている。

それではこれらのメッセージをどこに向けて発信していくのかということでは、まずターゲットとしては市民の方だろう。昭島市の魅力を再認識していただくためのターゲットとして市民があり、今後も住みたいと思っていただくということが当然ある。更に「総合戦略」なので、外に向けての発信である。外に対し、昭島へ訪れてみたいと思っていただく。そのためには今まで当たり前だと思っていた水やコミュニティ、雇用のことをうまく外に向かって発信していく必要がある。そして訪れていただいた方に魅力を感じていただき、住んでもらうというところまで何とかつなげ、想定内の人口減少に収めることが昭島市の戦略になるのだろう。これま

での議論はこのようにまとめられると思う。全体像はこれで出来上がったので、この後、議会への提出やパブリックコメントを実施し、フィードバックをいただくことになる。それらを集約して、再度この委員会で最終確認をすることで、この委員会としての役割を終えることになる。

5. その他

事務局・・・本日いただいた意見等を踏まえ、課題を検討していく。今後のスケジュールだが、12月15日（火）全員協議会が開催され、その中で、「人口ビジョン」を含めた「総合戦略」について協議をいただく予定である。また、12月21日（月）から来年1月22日（金）までの期間でパブリックコメントを実施する予定である。パブリックコメントが集約できた段階で、第6回の検討委員会を1月下旬から2月上旬あたりに開催し、最終的なまとめをしていきたい。まとめにあたっては資料3「昭島市総合戦略冊子イメージ(表紙と目次)」をご覧くださいとわかるように、「人口ビジョン」、「総合戦略」を合わせた1つの冊子とする。また、庁内および外部検討委員会の設置要綱、委員名簿、委員会の開催経過、また、参考資料として意識調査の結果、市民ワークショップの意見のまとめを付属資料としてつけて、1冊の冊子としてまとめていきたい。

委員長・・・次回、皆さんにお集まりいただくのは、来年2月の始めぐらいになろうかと思うが、改めて日程の調整はさせていただきたい。
それとこの後、また何かお気づきの点があれば、遠慮なく事務局にフィードバックをいただきたい。

6. 閉会

委員長・・・これにて「第5回総合戦略策定検討委員会」を終了する。